

●表紙イラスト
鶴田一郎 (1954年 本郷市生まれ)

表紙のことば
今回は早春の熊本市街をイメージして描いてみました。おそらく仕事を持った女性なのでしょう。さわやかな風を残して足早に歩き去っていきます。いきいきと働く女性はとても美しいのです。

●シーン'89撮影
池田輝明
阿蘇の湿地で見つけた「春の訪れ」。その可愛さに思わずワン・ショット。

編集後記

みなさん、「郷の匠」をご存じですか？ ころの時代といわれる今、木造住宅が見直されています。伝統の良さを生かしながら、現代のニーズに応えることのできる家づくりを提案しようというのが、くまもと型新木造住宅「郷の匠」です。伝統的な工法に現代工法の利点を取り入れ、材木もよく乾燥された高品質のものが使用されています。今、モデル住宅13戸が熊本市秋津町の秋津レークタウンに展示されています。みなさんも一度足を運んでみませんか。

ふるさと紀行で尋ねた南関町。ソーメンの里として有名ですが、ここにはもうひとつ忘れてはならない味があります。「南関あげ、がソレ」。普通のあげの倍以上もあるジャンボサイズのうえ、常温で2、3ヵ月も保存できると聞き、早速、製造元へ……。このあげの秘密は、低温と高温による二度揚げにあるそうで、厚さ2～3mm、10cm角程の絞り豆腐が、油の中で瞬時に25cm角にも広がる様は、まるで魔法のようです。独特の風味と歯ざわりをもち、これをノリの代りに使った巻きずしは、味も姿も最高。ソーメンと共に南関ならではのふるさとの味といえそうです。ぜひ一度ご賞味を//

「くまもとの風」愛読者募集

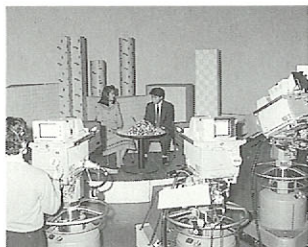
本誌の年間購読を希望される方は、1年分の郵送料1,440円(240円×6回)分の切手を同封のうえ、下記へお申し込み下さい。(随時受け付けます)

〒862 熊本市水前寺6丁目18番1号
熊本県広報課「くまもとの風」係

CONTENTS

1-4	特集 くまもとはじめて物語
5-6	風のコンパス
7-8	ステップ・アップKUMAMOTO 〜リゾートオフィス〜
9-10	ぴーぷる〜岩下早美さん〜
11-12	県庁探検隊〜第5回総務部私学文書課〜
13-14	シーン'89
15-16	30minutesトーキング〜清川虹子さん〜
17-18	ふるさと紀行〜南関町〜
19-20	ウォッチング元気図鑑〜東陽村〜
21-22	ひのくに偉人伝〜L.L.ジェーンズ〜
23-24	Information
25	街角便り
26	メディアMIX〜KKT〜

楽しい話題を追うレポート、ゲストとのお喋り、そしてお知らせの三本立てでお送りしている「いきいきくまもと」。案内役を務める高橋久美子です。広報番組は堅いと思われがちなので、より面白いレポートを目指しているんです。今回の舞台は、水俣湯の児温泉。出水まで行ったり、温泉に入ったり、逆立ちしたり……。レポーターの女子大生日野和代ちゃん大ハッスルの一日でした。いったんカメラが回ると、皆顔つきが変わるんですよ。私もゲストとのお喋りの時いまだに緊張しちゃって、その度に「友達と喋る時はどうだったかな」なんて考えたりするんですよ(笑)。いちばん難しいのは「合づち」。話が途切れないようにしなければいけないから、ヘンな所で合づちは打てない。話をささぎることになりかねませんからね。ゲストの「生の声」と、レポートの「現場体験」で、イキのイキ情報を楽しんでもらいたい。そして、もっと多くの人に参加してもらえればいいなと思っているんです。熊本って、本当にいいものをいっぱい持っているんですよ。伝統や文化なども凄いいものがあるし、その一方で、テクノ・リサーチ・パークなど新しい感覚のものもある。なぜ外に出さないのかなという、もどかしさがありますね。県内でも知られていない所は、結構多いし……。でも、そんな素朴な熊本だからとっても好きなんです。こんなに凄いいんだから、素材や見せ方によっていくらでも面白くなる。私たちも頑張りますから、とにかく見て下さい。眠いなんて言わないで。見なきゃ始まりません/日曜朝8時半からの「いきいきくまもと」どうぞ、ご覧下さい//



ていない所は、結構多いし……。でも、そんな素朴な熊本だからとっても好きなんです。こんなに凄いいんだから、素材や見せ方によっていくらでも面白くなる。私たちも頑張りますから、とにかく見て下さい。眠いなんて言わないで。見なきゃ始まりません/日曜朝8時半からの「いきいきくまもと」どうぞ、ご覧下さい//

KKT 「いきいきくまもと」

毎週日曜日 8:30▶8:45

●広報メディアMIX

いろんな熊本。もっと多くの人にお知らせしたいな。

熊本県民テレビ報道制作部 高橋久美子



●「おもいででの通学路」

尾沢 努 (23才会社員/甲佐町)

市内の会社に就職して数年。我が町のことなど、もう通勤路ぞいしかわかりません。そんな毎日の中でふと小学生の頃の通学路を歩いてみようという気になりました。2、3年ぶりに会った近所のおばさんと挨拶を交わし、やけに細く感じる路地から、田んぼのあぜ道をぬけて小学校へ。無くなっていたものは、よく買い食っていた駄菓子屋達。いつも陣取りの陣地になっていた校庭の大きなポプラ。私達が造ったトーム・ボール……。変わってなかったものは、田んぼのあぜ道から見る風景。バイパスの車の音の向こうの甲佐岳。母校越しに見える山の中腹には、UFOの基地だと勝手に決め付けていた隣町の中学校。それから足下の覚えのある雑草達……

●「私の好きな風景」

木本 典子 (26才公務員/田浦町)



私は通町からみえる熊本城が一番好きで、通勤の帰り道、電線と緑の合間に熊本城をみるとホッとして「熊本(熊本市内のこと)が一番だな」と思っていました。一昨年水俣にきて、初めはものめずらしかった水俣川周辺の景色が、今では通勤・昼休みの心なごみ場所となりました。昨年8月に長女を出産し、田浦の実家から水俣に通うことになって、今度は田浦の海岸線や日々繰りひろげられる夕焼けの美しさを自カメラで写して私の心に残しています。つくづく「熊本(熊本県のこと)っていいなあ」と実感する今日この頃です。



▲風テレホンカード

お便り募集/

みなさんの身近な情報(出来事・季節の変化・風景・感想など)を二百〜四百字程度にまとめてお送りください。(採用された方には「風テレホンカード」をプレゼント)

●あて先

〒862 熊本市水前寺6丁目18-1
熊本県広報課「くまもとの風」係

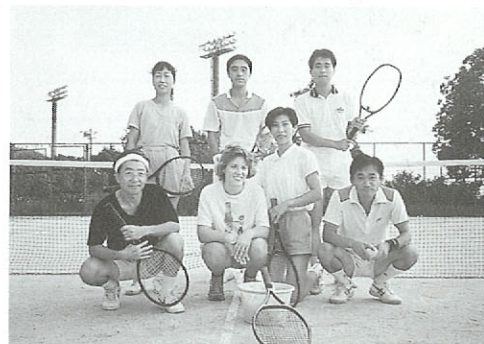
たくさんのお便りをお待ちしています。

HOTLINE

街角便り

●「ひっこし」

シュウイン・テラ (23才英語指導助手/松橋町)



昨年7月、熊本に着いてから不思議なことを実感しました。それは、熊本ではいとこと同じ学校に通う生徒は決して珍しくないのです。皆さんはそれが当たり前じゃないかと思うかもしれません。しかし私にとってはびっくり話です。なぜかという私が住んでいたアメリカのオハイオ州のシンシナチ市の近所には自分の家族以外の親類と同じ地域に住んでいる人はいないぐらいです。アメリカ人がよく引っこすからでしょう。私自身、生まれて家族が二回引っこしています。一回目は弟が生まれたため、もっと大きい家が必要になったからです。二回目は、ただ別の地方に住んでみたかったからです。おぼとおじの家族もあっちこっちに引っこしているの、親類がばらばらになってしまいました。「住めば都」という考えが支配的であるところから来た私は松橋町の多くの人の、ふるさとをいとおしむ心を強く感じました。